

**MID JAPAN
SOUND COMPLEX
ART FESTIVAL**

**Online
2021**

2月 27日(土) ~ 3月28日(日)

Leaflet

ミッドジャパン音の芸術祭実行委員会

Leaflet

2月27日(土) ~ 3月28日(日)

概要

先端テクノロジーの集積地である中部地域では、テクノロジーを活用した音楽表現活動が盛んに行われています。昨年、中部地域を拠点に表現活動を行う作家が中心となり、音による表現の多様性と可能性を追求し、中部地域において、音による表現活動の更なる活性化を図るため、テクノロジーをキーワードにして、音や音楽による様々な新しい表現の可能性を探る「ミッドジャパン音の芸術祭」を開催いたしました。

名古屋市内及び長久手市内の4会場において、コンサート、パフォーマンス、展示、ワークショップ等が三日間にわたって行われ、多数の方にご来場いただきましたが、本年は、様々な事情を鑑み、オンラインでの開催となりました。

今回は、昨年上演された、ネットワークを活用した、名古屋市立大学芸術工学部による「レゾ・エクスペリメンタル」がパワーアップし、三名の作曲家の作品をオンライン上で上演いたします。また、中部地域の作家を中心に、音楽作品、映像作品、インタラクティブ作品等、様々な作品や作家によるテクニカルなプレゼンテーションなど、録音や録画に留まらない、積極的にネットワークを活用した作品を取り上げます。

作家

[名古屋市立大学芸術工学部 環境デザイン研究所](#)

[藤田 将弥 \(FUJITA Shoya\)](#)

[岩本 渡 \(IWAMOTO Wataru\)](#)

[小櫻 秀樹 \(KOZAKURA Hideki\)](#)

[中川 丘 \(NAKAGAWA Takashi\)](#)

[野呂 有我 \(NORO Yuga\)](#)

[押山 晶子 \(OSHIYAMA Akiko\)](#)

[せきみつほ \(SEKI Mitsuhō\)](#)

[鈴木 悦久 \(SUZUKI Yoshihisa\)](#)

[寺井 尚行 \(TERAI Naoyuki\)](#)

[Tony Uhm](#)

[牛島 安希子 \(USHIJIMA Akiko\)](#)

レゾ・エクスペリメンタル2021 P1 réseau experimental 2021

名古屋市立大学芸術工学部 環境デザイン研究所
Nagoya City University

URL : MidJapanOnline開催中にProgramにてお知らせします。

2021年2月28日(日) 14:00~

You Tube Live による生配信とアーカイブ映像
* ライブ配信のリンク先は、おってアナウンスいたします。

出品作曲家 : 水野 みか子 (MIZUNO Mikako)

福島 諭 (FUKUSHIMA Satoshi)

鈴木 悦久 (SUZUKI Yoshihisa)

パフォーマー : 林美春 / 打楽器 (HAYASHI Miharū / perc.)



解説 :

音声高速通信DANTEで二つの教室を結び、人間動作がMIDI信号を送ります。二つのYouTubeLiveをストリーミングしますので、視聴に際して、同じ1台のPCでYouTubeLiveを見てもよいし、二つのPCで別々に見ても大丈夫です。二つのPCが別々のYouTubeLiveを担当しています。

ゲストの福島さんは新潟からの参加です。「レゾ・エクスペリメンタル」とは、「実験的な網」といったような意味ですが、Zoom、You Tube Live、DANTE、OSC、QRコードなど、現代のネットワーク環境の中で音楽はどんな表現を獲得するのか。ぜひご視聴ください。



雨垂れ石を穿つ

Constant Dripping Wears Away a Stone

藤田 将弥 (FUJITA Shoya)

URL : MidJapanOnline開催中にProgramにてお知らせします。

解説 :

オンラインでの展示ということで、オンライン視聴だからこそその映像表現をコンセプトにしております。ただ、不本意ながら、本作内で皆様をイライラさせてしまう可能性があります。しかし純粋に本作のテーマを貫くには「この手法」が最適解と判断し、敢えて導入を試みました。ご了承いただいた上でご視聴いただければ幸いです。
※突然大きい音が出たりなど、人体に害のある内容ではございません。

The concept of this piece is a visual expression that is only possible through online viewing, because of the style of this exhibition.
The only thing I am reluctant to do is to apologize for any irritation I may cause in this work. However, I judged that "that method" was the best way to genuinely follow the

theme of the work, and I decided to try to introduce it. I hope you will understand and enjoy the movie.

* There are no harmful effects such as sudden loud sounds.



Synesthesia for Harp and Electronics

岩本 渡 (IWAMOTO Wataru)

URL : MidJapanOnline開催中にProgramにてお知らせします。

解説 :

音を聴くと色を感じたり、音とは異なる別のイメージが思い浮かぶことがある。これを共感覚というが、人によってその感じ方には大きな違いがある。不確定で、なんともイマジネイティブなこの現象に思いをはせて、ハープとエレクトロニクスのために作曲した。この作品は2016年9月、愛知県立芸術大学創立50周年記念イベント「エレクトロアコースティックサウンドコンサート」にて、ハープ奏者の操 美穂子氏によって初演された。



MIZU (for dance and electronics)

小櫻 秀樹 (KOZAKURA Hideki)

URL : MidJapanOnline開催中にProgramにてお知らせします。

解説 :

MIZU for dance and electronics は2019年にベルリン、Acker Stadt Palastにて初演された。5人のサウンドアーティスト全員が、一人のダンサーによる同一の振り付けに対して「音」をつけるというユニークなプロジェクトであった。



空に触れた音を聴く

inquire of sky

中川 丘 (NAKAGAWA Takashi)

URL : MidJapanOnline開催中にProgramにてお知らせします。

解説 :

触れることは命を与えること、授かることのように。音は物に宿っており、触れることで外に出てくるのでしょうか？ またそれは、仮想的な空間においても変わることはないのでしょうか。音を観測するための体験型コンテンツです。



Touching is like giving a life.

Does the sound dwell in objects and come out by touching it?

Isn't that the same in a virtual space?

Experience-based content for observing sound.



soundbiotope

野呂 有我 (NORO Yuga)

URL : MidJapanOnline開催中にProgramにてお知らせします。

解説 :

大学、愛知県のとある古民家の浴槽、瀬戸内のサイト等、色々なところで展示させて貰った「ねむりがさみしくないように」がWEBで動くようになりました。

初出のプログラムノートは「眠りたくない、眠るのが不安な夜に、自分が安心できるよう、代わりに起きていてくれる、生きていてくれる世界が欲しくて作りました。」という内容でしたが、ここにきてやっとこの作品は本来の姿と普遍性を手に入れたと思っています。ただの移植ではなく、当時にはなかった色の遺伝、突然変異、色と音色の関係等が盛り込まれ、アップデートされています。

個にフォーカスすれば誕生から消滅まで、群れにフォーカスすれば隆盛から衰退までの様々な状態が奏でる音のビオトープの世界をお楽しみください。

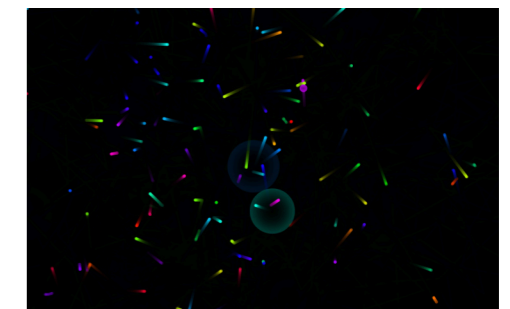
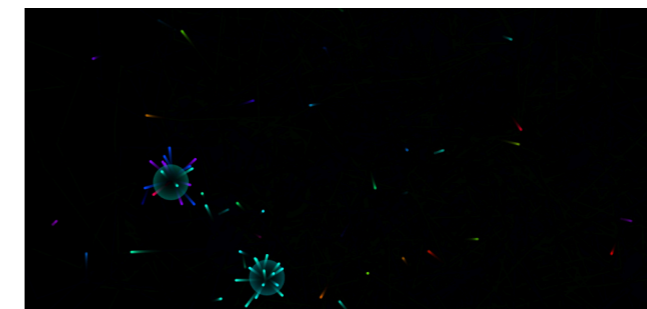
I made a web-based version of "ねむりがさみしくないように" which has been exhibited at various places including a university, a bathtub in an old house, Aichi Prefecture, and a site in Setouchi.

The first program note was, "I made this work because I wanted to have a world that would stay awake and live for me so that I could feel safe at night when I don't want to sleep or feel uneasy about sleeping."

I believe that this work has finally acquired its original form and universality.

It is not just a port, but it has been updated to include color inheritance, mutation, and the relationship between color and tone, which were not present at the time.

Please enjoy the world of the sound biotope played by various states from birth to death if you focus on an individual, and from prosperity to decline if you focus on a group.



つまれて

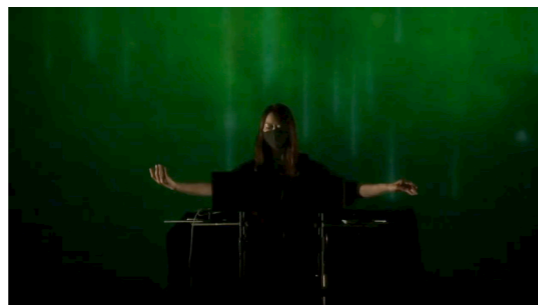
押山 晶子 (OSHIYAMA Akiko)

URL : MidJapanOnline開催中にProgramにてお知らせします。

パフォーマー : 押山晶子 OSHIYAMA Akiko

解説 :

DAWでの実時間での実装に伴う音源の再生とLeapmotionによる音場の制御を行い、また、キーボードによる照明の配色とLeapmotionによる明暗の制御を行うパフォーマンス。サウンドは全て笙の音を加工して制作した。笙は雅楽の中で唯一和音が奏でられる楽器であり、他の楽器を包み込む役割を担っていることから、このタイトルとした。



てくてく

a walk

せきみつほ (SEKI Mitsuho)

URL : MidJapanOnline開催中にProgramにてお知らせします。

解説 :

散歩をするのが好きです。休みの日や、仕事で疲れて帰った日、なんだか寂しい夜、それから、嬉しい気分が覚めやまない時なんか、ブラッと散歩します。

単純に歩いていく、自分の歩きたい方へ、時には人の流れに流されて・・・、時々休憩したりして。周りの景色や音を、流し見したり、聞き流したり、それで「あっ」と気になったものだけを、見たり聞いたり。それは日々の暮らしの中にあることともよく似ていて、すごく大袈裟な表現ですが、生きていくことのミニチュアみたいなものが、あるような気がするのです。すごく大袈裟な表現ですが。

無闇に出歩くのは、あまり褒められたことではない時期ですが、早く無闇に出歩ける日々が戻りますように。

I like to take a walk. I take a walk on my days off, when I get tired from work, when I feel lonely, and when I feel happy.

I think taking a walk is like a miniature of living.

It's not a good time to go out, but I hope that the days when we can go out early will come back.



Eleven

鈴木 悦久 (SUZUKI Yoshihisa)

URL : MidJapanOnline開催中にProgramにてお知らせします。

解説 :

僕らは知覚できる限られた時間で起こる事象のみに目を、耳を傾けることができるが、止まって見える/聴こえる事や、持続して見える/聴こえる音も、それぞれの時間の尺度での周期が巡っているのだろう。この作品では、そういった僕の周期への興味を基に、笙の11のハーモニーと、2,3,5,7,9,11,17,19,21,25,29の11のポリリズムで、ミクロの時間とマクロの時間を表現したつもりだ。



void natura_online()

寺井 尚行 (TERAI Naoyuki)

URL : MidJapanOnline開催中にProgramにてお知らせします。

解説 :

リアルに開催された展覧会<natura>の続編としての、4章からなるオンライン・インスタレーションです。リアル作品と同様、何らかのデータが作品制作上での大切な要素になっていますが、リアル作品と比較して、シリアスに過ぎないように制作してあります。また、全ての章で、J.S.Bachの「Prelude & Fugue」のようなプレリュードが付いています。

どの章でも、サウンドは重要な要素になっていますので、音量を上げ、それぞれの鑑賞方法の手順に従ってご鑑賞下さい。なお、ブラウザやハードウェア等の環境により、動作しない場合も考えられますが、その際にご容赦いただけますと幸いです。

Mov.1

RED (Revival Earth Difficult)

レッドリストの想いをイメージするために
必要機材 : パソコン

Mov.2

PHA (Prevention Help All)

潜在的に危険な小惑星をイメージするために
必要機材 : ノートパソコンと鏡

Mov.3

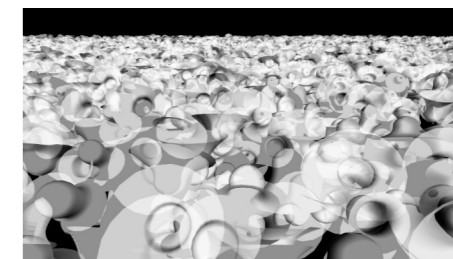
BUG (Bit Universe Game)

情報機器の進化をイメージするために
必要機材 : スマートホンと一般的な鍋

Mov.4

TIO (Transition from Inorganic to Organic)

無機物から有機物への遷移
必要機材 : ノートパソコンと紙



"Graffiti Lokomotiv" for electronics

Tony Uhm

URL : MidJapanOnline開催中にProgramにてお知らせします。

解説 :

グラフィティアーティストの自由で前向きな精神世界を満喫する。それは美しさより、さびた鉄のように荒々しいものであるだろう。だが、逆にそれは生命力を生み出す。この瞬間、そんな世界へ旅立つ。突入するのだ。



Glare for violin and electronics

牛島 安希子 (USHIJIMA Akiko)

URL : MidJapanOnline開催中にProgramにてお知らせします。

解説 :

“glare”は眩しさ、眩しい光という意味がある。作品で使用したいと常々思っていたヴァイオリンの自然倍音をグリッサンドで演奏する奏法と光が乱反射する視覚的なイメージが合致し、構想が生まれた。白い光が幾重にも重なり続ける様子。それは知覚する側にとって飽和した状態に感じられ、いつしかそれらは濁って見えてくる。ピッチや音質のグラデーションでその視覚的イメージを構築した。

2019年6月に両国門天ホールにて開催されたogen/blik vol.3にて佐藤友香氏により初演され、2020年1月11日 "TAMA Music Festival" にて三瀬俊吾氏により再演された。本映像はその際に撮影されたものである。またヴァイオリン版が2019年10月に東京のソノリウムにて弦楽器奏者の甲斐史子氏により演奏された。



ミッドジャパン音の芸術祭ホームページ
<https://www.terrachan.com/midjapan>

